

とがち帯広FC

静岡市長杯

第46回清水チャンピオンズカップ報告書

大会結果

☆予選リーグ

- 第1試合 とがち帯広FC 4-0 塩尻西SSSS (長野県)
- 第2試合 とがち帯広FC 2-1 清水トレセンU12 (静岡県)
- 第3試合 とがち帯広FC 2-0 会津サントスFC (福島県)

1位トーナメントへ

☆決勝トーナメント

- 第1回戦 とがち帯広FC 5-2 カワイ体育教室サッカークラブ (静岡県)
- 準決勝 とがち帯広FC 2-0 レジスタFC (埼玉県)
- 決 勝 とがち帯広FC 2-0 バディーSC (神奈川県)

参加32チーム中 第1位

2018. 12. 22~24

清水総合運動場他

報告者 十勝少年サッカー連盟広報情報委員長 喜多 進

再び快挙達成！「チーム十勝」がつかんだ全国制覇！

十勝少年サッカー連盟 喜多 進

この清水チャンピオンズカップは、全国各地の大会で優秀な成績を収めたチームが、サッカーどころの清水に集い、その年の真のチャンピオンを目指す大会として定着している名誉と権威のある大会です。我々「とかち帯広FC」は、大会実行委員会の推薦も含めて今回で16年連続の出場となりました。

今年度の十勝トレセンの活動は、音更のキックロスを使用させて頂き、11月の下旬まで屋外でのトレーニングを積むことができました。今回のメンバー16名ですが、技術の優れた子や身体能力の高い子などがそろい、全国トップレベルの大会で、どこまで戦えるのか、私自身楽しみにしていました。

今大会、3日間で6試合、全国の強豪チーム相手に素晴らしい試合を繰り広げました。ひるむことなくたくましく戦い、そして、見事優勝に輝きました。2014年以来2度目となる快挙です。全日本少年サッカー大会で3位になったのが2003年です。それから約10年の月日が流れ、初めて全国の頂点に立ちました。今回は、わずか4年で再び全国の頂点に立つことができました。十勝のレベルが確実に上がっている証拠です。

今回の大会に参加した選手16名、そしてトレセンスタッフの頑張りはもちろんですが、十勝の少年サッカーの仲間たち、各チームで熱心にご指導いただいている指導者の皆さんのお力、まさに「チーム十勝」「オール十勝」の勝利だと感じています。

今回一番強く感じたことは、十勝の子どもたちの「個の力」が全国でも十分に通用したということです。我々十勝トレセンが、ここ数年課題として取り組んできた個の育成が、各チームでの指導の充実もあり、少しずつ成果となって表れてきたものと思います。1試合ごとに、十勝の子どもたちの「たくましさ」を実感しました。そして、チームの成長を見ることができました。運動量は、「半端なかった」です。

近そうで遠かった全国のトップレベル。しかし、まだまだ追いついたとは思っていません。この成績に満足することなく、おごることなく、十勝の子どもたちと、十勝の指導者の皆さんと共に新たな一步を踏み出していきたいと思っています。

なお、今年の大大会も、清水の船越サッカー少年団、旅館日本閣さんはじめ、多くの関係者の方々にたいへんあたたかいご支援を受け、充実した遠征となりました。

少年トレセンの最終段階として、この時期に全国の強豪チームと多くの試合ができるこの大会は、我々にとって本当に大きな財産となっています。ここで得た経験、熱い思いを選手、スタッフ忘れることなく、次のステップに活かしてほしいと願っています。

終わりにになりましたが、この遠征に際しまして、十勝地区サッカー協会はじめ、十勝少年サッカー連盟、各単位少年団関係者の皆様方、そして保護者の皆様には、多大なご支援とご協力をいただき心より感謝申し上げます。今後とも、十勝地区のレベルが高まるようスタッフ一同努力いたしますので、今まで以上のご指導、ご協力をお願いいたします。

簡単ではありますが、イレブンの健闘ぶりをまとめましたのでお読みください。

12月22日（土）

☆予選リーグ第1試合 とちぎ帯広FC 4-0 塩尻西SSSS（長野県）

前日地元船越少年団と練習マッチをしたものの、久しぶりの公式戦ということで試合の立ち上がりを心配していたわけだが、やはり選手の動きが硬い。押し気味で試合が進むものの試合を落ち着かせるための先制点が遠い。15分、⑦からボールを受けた⑨が落ち着いてゴールへ流し込み待望の先制点を奪う。その後も③の相手DFの裏を狙ったロングボールでチャンスを作り⑨、⑩がゴールに迫るも前半は1-0で終わる。ハーフタイムでは、相手DFの裏の取り方の確認と、十勝らしく大胆にプレーすることが伝えられる。

後半に入ると、選手の動きが見違えるほど良くなり、攻守にわたり連動した動きが見られた。7分、右サイドをえぐった⑩から最後はフリーでゴール前に待つ⑭につながり追加点を奪う。その後も⑦、⑩のシュートが決まる。途中交代の選手も躍動した動きで、幾度となく相手ゴールに迫る。守備でも、身体を張ったプレーで無失点に抑える。この試合、選手全員がピッチに立ち、大会の雰囲気慣れることができた。

☆予選リーグ第2試合 とちぎ帯広FC 2-1 清水トレセンU12（静岡県）

予選2戦目の相手は、地元清水トレセンU12。初戦の試合を見て、コーナーキックなどのセットプレーに迫力があり、パスの精度も高く、難しい試合が予想される。試合序盤は、押し込まれる場面が続く。恐れてしまい、簡単に相手の足元にボールを入れられてしまうので、積極的にボールを奪いに行くように指示が出る。やや押しこまれる中、6分、⑩が粘り強く相手ボールを追いチャンスを作る。⑥のセンターリングに⑨が頭で合わせて先制ゴール決める。1点を奪ったことでとちぎのプレーが積極的になる。13分には、⑨→⑤とつなぎ、最後は⑥がゴール前に跳び込むも、惜しくもあと1歩届かず。動きの良くなったとちぎは、17分、⑦のパスを受けた⑨がゴールを決め2-0とする。

後半、清水トレセンはエースの⑩を投入する。相手のエースに対し、とちぎは④がしっかりと対応する。また、機転を利かせ、ボール状況に合わせて③がカバーに入る。試合が進むにつれ、ボール際の攻防が更に激しくなってきたが、とちぎはしっかりとボールを動かし、強い相手に臆することなく攻守に連動する。特に、この試合は、前線からの守備が素晴らしく、素早いアプローチが清水の選手の焦りを誘う。18分には、⑬→⑨→⑧とつなぎシュートを打つもゴールは奪えず。19分、警戒していた⑩にフリーでシュートを打たせ失点を許すも、最後まで粘り強く戦い2-1で勝利。

大会初日は、2戦2勝と幸先の良いスタートを切った。

12月23日（日）

☆予選リーグ第3試合 とちぎ帯広FC 2-0 会津サントスFC（福島県）

この試合、フレッシュな選手を投入して前半を戦う。アグレッシブに動くとちぎが主導権を握る。⑧のミドルシュートや、DF⑫の積極的な押上げでチャンスを作る。4分には、⑧→②とつなぎ、⑪がシュートを打つ。GKを中心に守備が硬い会津は、なかなかフリー

でシュートを打たせてくれない。その後も、⑤のオーバーラップや⑬のシュートなどで何度もチャンスを作る。10分には、⑧の強烈なシュートが相手DFに阻まれる。また、この試合を任されたGK⑳からの精度の高いロングボールからもチャンスを作る。②や⑫の押し上げも目立った前半戦だが0-0で終了する。

メンバーを入れ替えた後半も積極的に相手ゴールに迫り、シュートを放つが、なかなか相手DFを崩せない時間帯が続く。コートを広く使い、ダイナミックにプレーするように指示が出る。10分、右サイドを突破した⑦のセンターリングに⑨が合わせ待望の先取点を奪う。その後も攻守の切り替えが早く、相手にボールを奪われてもすぐに奪い返すといふとかちの時間が続く。試合終了間際の19分、⑳からのロングボールが⑩につながりシュート。そのこぼれ球を⑨が決め2点目を奪う。試合はそのまま2-0でとかちの勝利。予選3勝で、午後からの決勝トーナメントに進む。

☆決勝トーナメント 1回戦 とかち帯広FC 5-2 カワイ体育教室（静岡県）

決勝トーナメントの初戦は、チビリンピックの東海地区代表のカワイとの対戦となった。トップの⑳とDFの④は、静岡県トレセンのメンバーである。試合は、開始早々に動く。1分、⑩からボールを受けた⑨がペナルティーエリアに侵入すると、相手ディフェンスの足がかかりPKを獲得する。このPKを⑨が落ち着いて決め先取点を奪う。その後も攻勢を続けるとかちは、⑨、⑩を中心に相手ゴールに迫る。相手の攻撃も⑦が的確なポジショニングでピンチの芽を摘む。13分には、コーナーからチャンスを作り⑥、⑦が立て続けにシュートを打つも、⑦のシュートはポストに嫌われる。16分、FKからのこぼれ球を押し込まれ1-1となる。ハーフタイムでは、システムを2-3-2から3-3-1に変え、コンパクトにサッカーをするように指示が出る。

後半開始早々、④の鋭いインターセプトからのボールが⑩につながりGKをかわしてシュートを打つも惜しくも枠から外れる。直後のピンチは、①の反応の良い飛び出しで防ぐ。5分、FKのチャンスを迎える。④のキックを相手GKがはじいたところを⑨がしっかりと詰め、勝ち越し点を奪う。7分、⑦→⑨とつながり3点目を奪う。10分、⑨→⑩とつながり4点目。16分には、⑨からのパスを受けた⑬が5点目のゴール。相手の反撃を1点に抑え5-2の勝利。全国ベスト4だ。

明日の戦いが楽しみだ。

12月24日（月）

☆決勝トーナメント 準決勝 とかち帯広FC 2-0 レジスタFC（埼玉県）

準決勝の相手レジスタは、今年度のチビリンピックの全国チャンピオンチーム。強豪中の強豪だ。試合前、これまで通り、とかちらしく戦おう。特に、守備は連動して高い位置で相手ボールを奪おうと指示が出る。この試合もアグレッシブに戦うとかちイレブン。⑨、⑩、⑥を中心に相手ゴールに迫る。相手の怖い選手である⑳にも、③、④を中心に突破を許さない。レジスタ相手に、堂々とした戦いを展開している。その後も、④や⑧のシュー

ト、また、丁寧にパスをつなぎ攻め込むとかちがチャンスを作るも得点にはつながらない。

後半開始早々、レジスタ⑩の見事なターンからのシュートはバーに救われる。少しでも距離が空くとシュートを打たれるのが全国レベルだ。3分、とかちに待望の先取点が入る。左サイドをドリブル突破した⑨のセンターリングをゴール前に走りこんだ⑧が頭で合わせる。強烈なシュートが相手ゴールに突き刺さった。まさに点で合わせたスーパーゴール、いやミラクルゴールだ。動きの良くなったとかちは、更に相手ゴールに迫る。また、相手のチャンスも、体を張った守備陣の活躍と、GK①の的確な判断、勇気あふれるプレーで防ぐ。8分、⑧の右サイドからの速いセンターリングに⑨がとびこみ、ゴール前で混戦になったところを⑩が押し込み2点目を奪う。その後も攻撃の手を緩めないとかちが、最後まで主導権を握り2-0で勝利する。さあ、いよいよ決勝戦だ。

12月24日(月)

☆決勝トーナメント 決勝 とかち帯広FC 2-0 バディーSC (神奈川県)

バディーも全国に名の通った強豪中の強豪だ。レジスタが優勝したチビリンピックでは準優勝。全国トップレベルの関東大会でも3位になった実力は本物だ。その相手に、とかちがどこまで我慢することができるのか、はたまた通用するのか、楽しみで仕方ない。

バディーのキックオフで試合は始まる。すると開始早々、相手のボールを奪った⑩がトリブルで仕掛け左サイドを突破する。そのまま左足で振りぬいたボールが相手ゴールに吸い込まれ電光石火の先取点を奪う。この大会6試合、先取点は全てとかちだ。相手のエースには⑦が対応する。とてつもなく速い相手にも⑦を中心にチームとして守ることを忘れてはいない。ピッチを広く使い、速いパス回しでボールを動かし、ズレを生じさせようとするバディーに対し、とかちは豊富な運動量と連動した守備で対応する。攻守の切り替えが非常に速い試合が進む中、14分に、再びとかちが得点を奪う。相手の強烈なシュートをキャッチした①の素早い展開から⑨がボールをキープし⑦へつなぎ、⑦が倒れながらもシュートを決める。その後、とかちに襲い掛かるバディーであったが⑭も必死に体を張りピンチを防ぐ。ハーフタイムでは、十分に戦えている。もっと楽しもうと声がかかる。

後半に入っても、とかちの集中力は途切れない。気温が上昇する中、運動量も落ちない。強豪相手に、素晴らしいサッカーを展開している。実は、後半に入ってから、ピッチ上だけが気になり、私自身のメモがあまり残っていないのだ。というわけで、試合の詳細が伝えられないことをお許しいただきたい。ただ、メモには、バディー猛攻。マークがずれてきた。素晴らしいシュートブロック。「十勝の走り、半端ねえ!」。あと5分、あと3分、あと1分、とだけ書いてあった。とにかく、全員で攻め、全員で守り続けた。戦っていたのは、ピッチ上の選手だけではない。ベンチにいるメンバー、コーチ陣も必死に戦っていた。そして、十勝から応援に駆け付けてくれたたくさんの保護者、兄弟、おじいちゃん、おばあちゃんもスタンドから大きな声援を送ってくれた。

ついに歓喜の瞬間が訪れる。試合終了のホイッスルが鳴り響く。2-0とかちの勝利。バディーを破っての優勝なんてありえない。すごい子どもたちだ。

現地清水駅出発の時刻が15:09…。表彰式は14:30からということで、残念ながら表彰式には参加できないはずだった。決勝戦終了直後に全員で大会本部に挨拶に行くと、大会関係者、来賓の方々のご配慮で、とちぎ帯広FCのために特別な表彰式を行ってくれた。選手も、コーチ陣も大感激。感謝の言葉しかない。

私自身、2014年以来2度目の頂点となる瞬間に立ち会えたわけだが、本当に十勝の子どもたちはすごかった。十勝の大地で育った身体能力を最大限に発揮し、ダイナミックな連動した動きで攻守にわたって相手チームを圧倒する「十勝らしい」サッカーで、全国の頂点に立つことができた。この「十勝らしさ」が、今後も継続することができるように、トレセンスタッフ一同力を合わせて頑張ってください。

今大会に参加した16名の選手へのコメント 文責 牛木コーチ

1

この1年間で急成長を見せたとちぎ帯広FCの正GKの貫禄は日を追うごとに増していき、誰もが信頼するGKとしてピッチの最後尾に君臨しました。四隅を狙う相手のシュートにも体全体を伸ばして反応し、簡単にゴールを割らせることはありませんでした。シュートコースによって、キャッチングなのかパンチングなのかの判断の質を上げ、鉄壁のGKとしてさらなる躍進をしてください。

2

今大会でもキャプテンを務めてくれました。ボールを失わないためのボールの運び方はセンスを感じました。一方で、積極的に相手ゴールに迫る迫力を身に付けることも求められます。「自分が嫌なことは人に押し付けない。」の言葉はコーチの信頼の礎となりました。2年間、個性派ぞろいのチームをまとめてくれたことに感謝します。

3

両足での安定感のあるプレーはチームに落ち着きを与え、また、ボール状況での予測に基づく良いポジショニングからのヘディングとカバーリングは一級品で、さくらカップ最優秀選手賞受賞者の名に恥じない活躍でチームにとって不可欠な選手となりました。キックの種類を増やし、プレスキッカーとしても活躍できるようにしていきましょう。

4

対人守備の強さ、ハイボールをはじき返す高さやヘディングの強さは一級品。ボール状況を観た予測からのカバーリングでチームのピンチを何度も救ってくれました。チームの失点の少なさに多大なる貢献をし、十勝トレセンスタッフ推薦の優秀選手賞を受賞しました。リスク管理の意識を高め、攻めながら守る感覚を養いましょう。

5

得意の左足でのパンチのあるキックとリスクを減らすための運動量はチームに安定感をもたらしました。守備の部分で、ボール状況と相手の状況を考えて縦ずれに行く行かないの判断の質を上げると共に、逆脚でのプレー頻度を高めて選択肢を広げつつ、パスの質にこだわる選手となってください。

6

チーム随一のボールフィーリングで的確にボールを保持して効果的に時間を生み出し、展開の速い8人制において異質の存在となりました。この先の年代において必要となるフィジカル面を強化することができれば、相手にとってこれまで以上に脅威となること間違いなしです。

7

勘の鋭さ、駆け引きのうまさはチームトップクラス。中盤で何度もボールを回収し、前線へパスをつないでチームのリズムを生み出しました。自分のプレーに自信を持ち、どんな大舞台でも胸を張ってピッチに立つメンタルを身に付けて、チームを引っ張って行ってください。

8

サッカーセンスはチームでも随一。理解度が高く、求められたプレーをたんとこなす姿はとても頼もしく、両足から放たれる正確無比なキックも相手にとって脅威となりました。日常からチームメイトと積極的にコミュニケーションを図り、オンでもオフでもチームの中心となって引っ張っていくことを期待します。

9

圧倒的な強さと速さ、そして一瞬で相手を置き去りにするターンテクニックとマークを外す動きは観衆の目を釘付けにしました。攻撃面だけでなく守備では前線から献身的にプレスに行き、攻守両面で相手にとって脅威となり、誰もが納得の最優秀選手賞を受賞しました。守備の面ではハードワークできる良さを生かしつつ、相手を誘い込むような駆け引きも身に付けていきましょう。

10

一瞬で相手を置き去りにするクイックネスとドリブルテクニック、そしてゴールに向かう意識の高さと精度の高いクロスで幾度となくチャンスメイクをしてくれました。ボールを持った時に相手に与える恐怖感はすさまじく、優秀選手賞受賞は誰もが納得の評価でした。オフザボールの運動量を上げ、さらなるハードワークを期待します。

11

質の高いボールタッチと持ち前のスピードで相手を脅かし、決勝戦では短時間ながら、猛烈なプレッシングで相手を焦らせました。ボール状況での立ち位置や優先順位を理解することで、チームにとって不可欠な選手となることでしょう。

12

1対1の守備の強さはチームトップクラス。オフザピッチでもムードメーカーとして活躍してくれました。左足のプレーの質を高め、ボールを持った時にできることを増やすことであらゆるポジションでのプレーの可能性が広げられるでしょう。

13

スピードとパワーはチームNo.1。小学生離れした身体能力の高さは相手にとって脅威となりました。ゴール前での冷静さを生み出すためにも、日常的にボールにたくさん触れて、プレーの安定感を高めましょう。サッカー理解を高めて持ち前の身体能力をこれまで以上に活かすことができれば、相手にとって物凄い脅威となるでしょう。

14

攻守において1対1のプレーでは常に目を見張るものがありました。決勝戦では、相手のストロングであった右サイドの攻撃を完全に封じ、勝利に大きく貢献してくれました。いつでもどこにいても効果的に攻守に関われるのかを理解し、オフの動きの質を高めることがさらなる飛躍につながります。

15

サッカー理解があり、持ち前の冷静なプレーはチームにリズムを生み出しました。準々決勝では途中出場ながらファーストタッチで相手をおかわし、一瞬の動きで相手の背後を突く積極性を見せ、見事ゴールを決めてチームに勢いをもたらしました。自分の思いを伝える気持ちの強さを持ち、常に自分の力を存分に発揮していくことを期待します。

20

1試合を任された予選リーグ第3試合目。後方からどンドン声をかけ、チームを盛り上げて良い雰囲気を作り、無失点勝利をおさめました。また、自チームで取り組んだ持ち蹴りは精度が高まり、見事1本のキックで得点を演出しました。時にはフィールドプレイヤーとしての経験も積み、サッカー理解を高める中でコーチングの質を上げていってください。